

The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE

ESTABLISHED IN 1812

APRIL 10, 2014

VOL. 370 NO. 15

Spirolactone for Heart Failure with Preserved Ejection Fraction

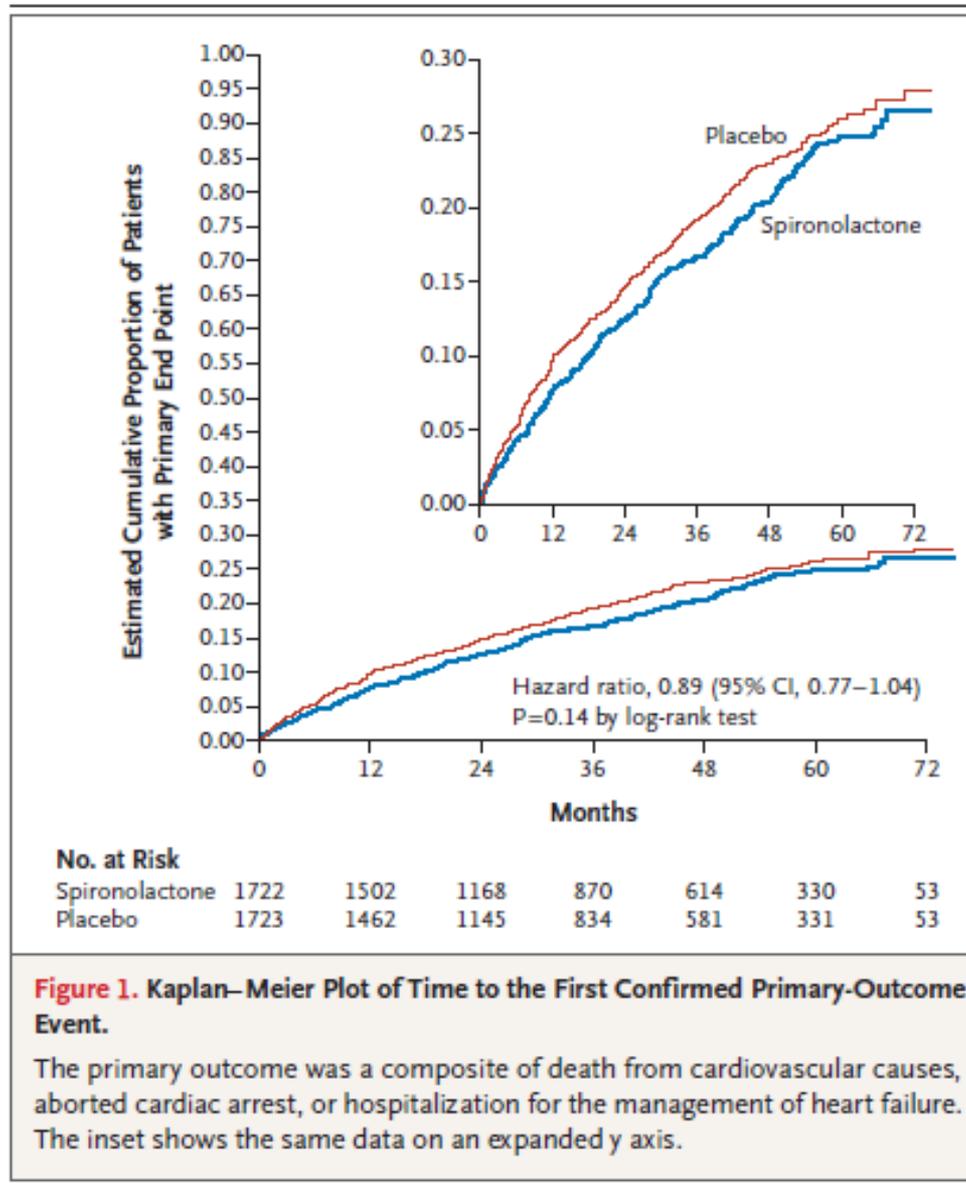
この論文がTOPCAT ClinicalTrialsです。

駆出率が保持された心不全患者では、アルダクトンによる治療を行っても、心血管系の原因による死亡、蘇生された心不全、心不全治療のための入院から成る主要複合転帰の発生率は有意には低下しなかったとの論文です。

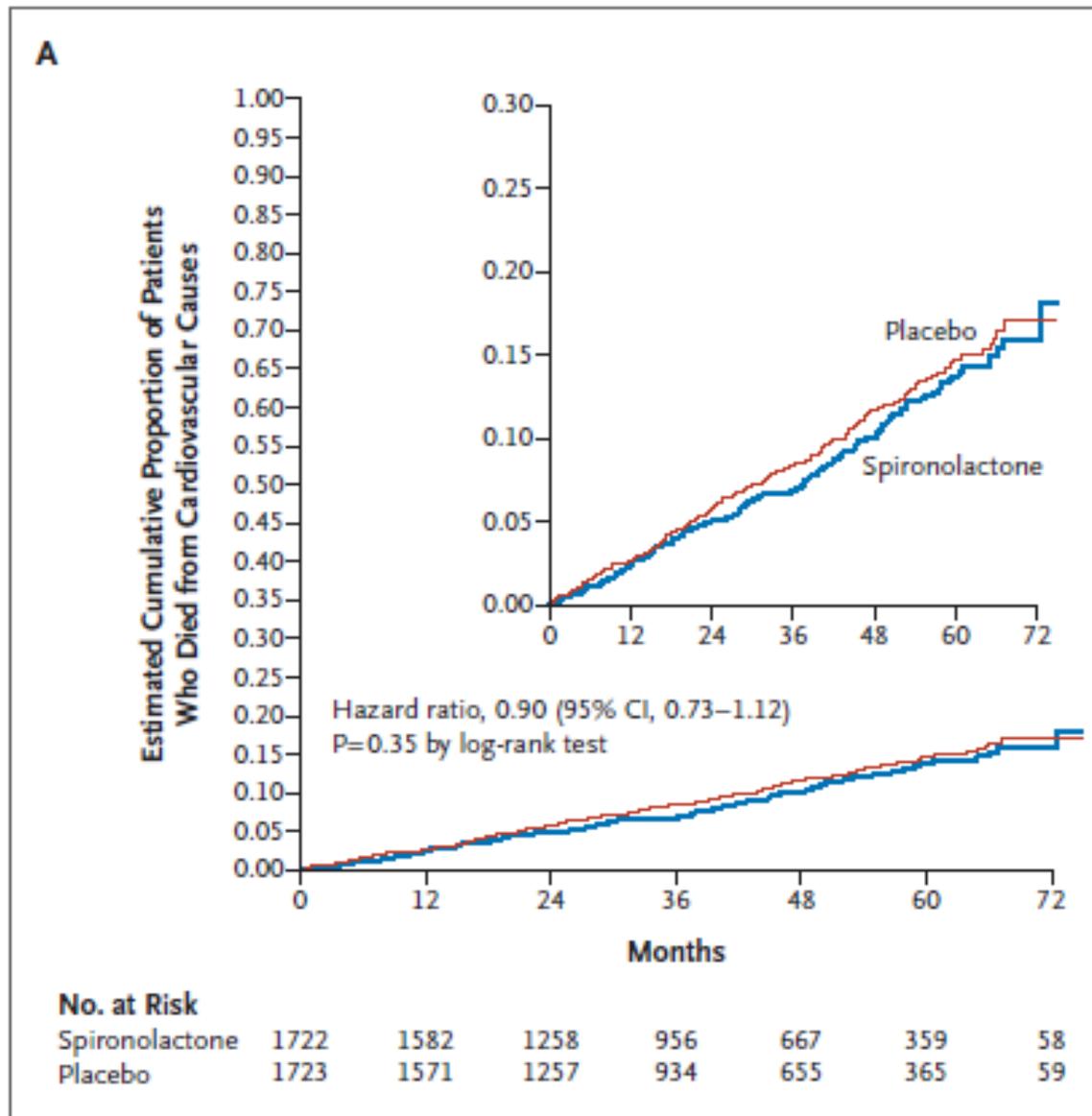
本研究でのアルダクトンの副作用に関しては高カリウム血症はプラセボと比較して18.7%対9.1%と多いのですが重態な副作用はありませんでした。

クレアチニンも10.7%対7.0%と増加していましたが腎機能の悪化を心配する程ではありませんでした。

この事から十分にモニタリングすれば安全として思いましたが残念ながら駆出率が保持されている心不全にはアルダクトンは有効ではないとの認識を持ちました。



主要転帰に差は無いようです。



心血管疾患による死亡率にも差は無い

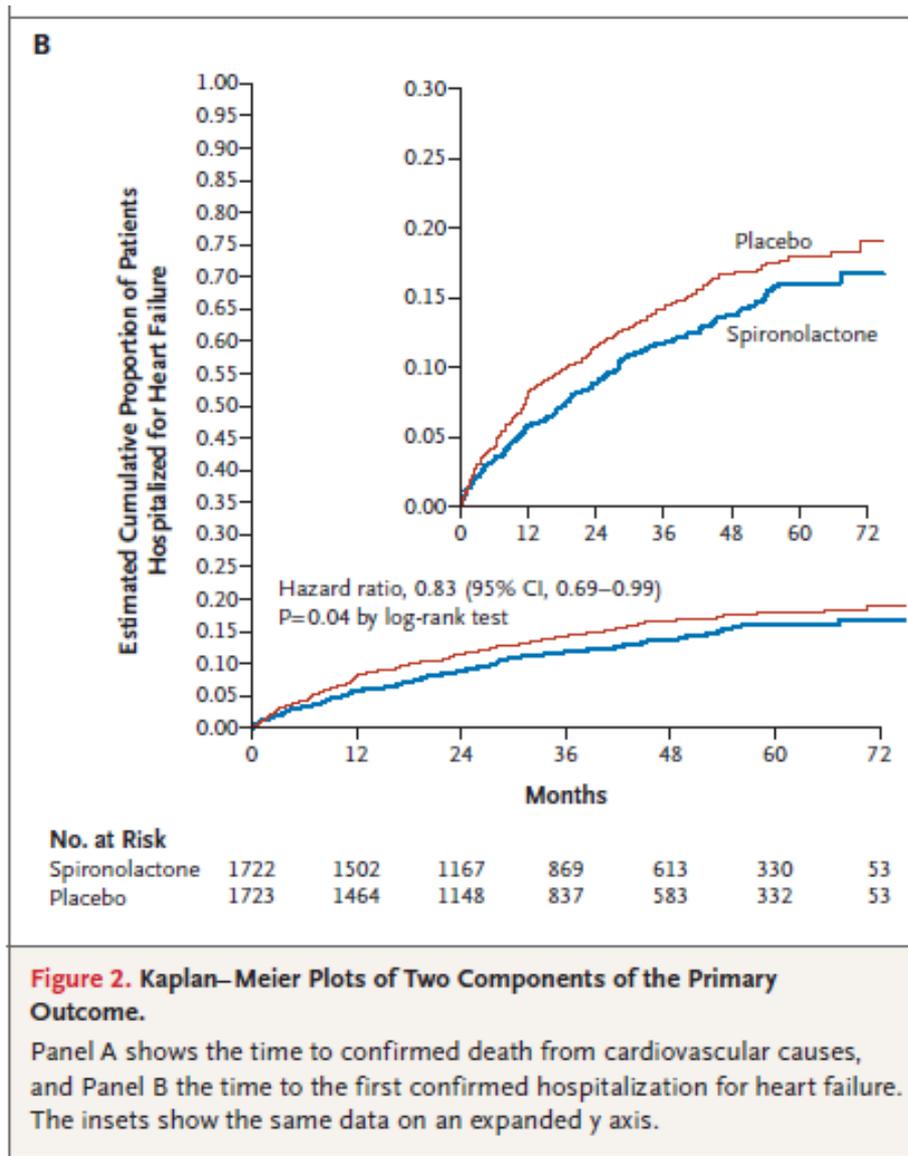


Figure 2. Kaplan–Meier Plots of Two Components of the Primary Outcome.

Panel A shows the time to confirmed death from cardiovascular causes, and Panel B the time to the first confirmed hospitalization for heart failure. The insets show the same data on an expanded y axis.

入院率にも差は無い

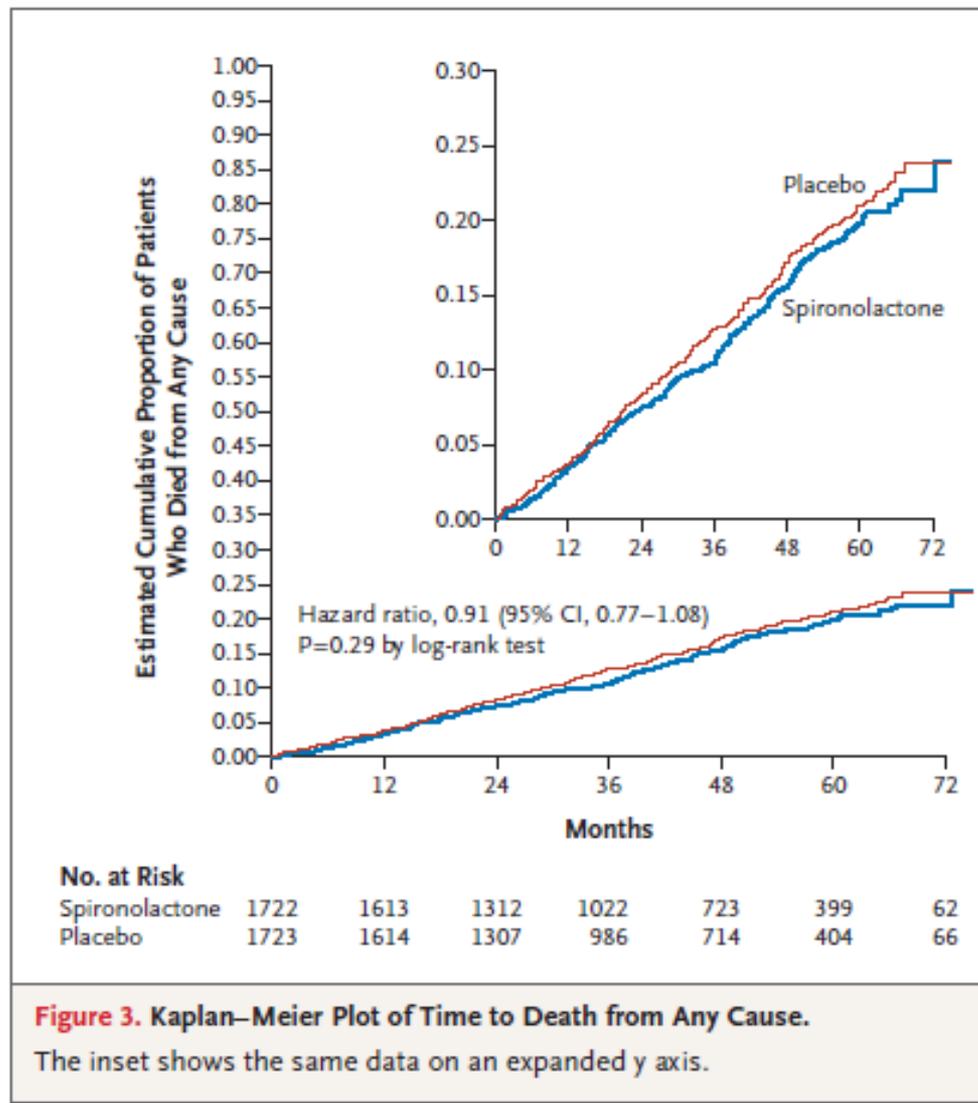


Figure 3. Kaplan–Meier Plot of Time to Death from Any Cause.

The inset shows the same data on an expanded y axis.

全死亡率に関しても差は無い